

抄録：

症例に応じた完成度が高く理想的な補綴修復治療を達成するには、その症例の病因の的確な診断とリスクファクターの分析から長期安定が可能なゴールをイメージした治療戦略を実践することが重要であり、その過程において担当する歯科医師と補綴装置製作に携わる歯科技工士が情報を共有し、互いの技術を提供し合う必要があります。

一方、歯冠修復や欠損補綴をするうえで、CAD/CAM は必須技術となっています。そのベースとなるデータの収集はデスクトップや口腔内スキャナーによる口腔内情報のデジタル化からはじまり、また、デジタルデータがもたらす恩恵は、情報の再現性や劣化のない保存および簡便な利用・通信を可能にすること等が挙げられます。今回の講演では、患者に補綴装置を提供するにあたり、歯科医師が技工サイドに渡さなければならない情報や口腔内処置、その上で歯科医師が歯科技工に望むこと、そして現時点でのデジタル化されたそれらの情報を歯科医師と歯科技工士が共有することで得られる利点、また依然必要とされるアナログな部分について、症例とその治療ステップを供覧しながら考察したいと考えています。